

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		ソフィアスペース上津役（放課後等デイサービス）		公表日		令和7年 3月28日	
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点		
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○		利用定員の観点から適切なスペースを確保している(指導訓練スペース・静養スペース合わせ55㎡以上)	今後、利用人数が増えるとスペースに改善が必要だと感じる	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	○		安心・安全を担保する為に基準以上の人員を確保しつつ、専門的知識を持つスタッフを配置している	今後、利用人数が増えると改善が必要だと感じる 現状、ギリギリだと思うが人員確保に動いてはいる	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	○		2階への階段については、手摺を備え付けている	2階へ繋がる外階段が急こう配である為、今後も、見学者や利用児童には都度、声掛けを行っていく 学習機の必要性	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○		様々な活動に必要な設備を整えつつ、日々の清掃および換気を行っている	物を収納できる環境が、もう少し欲しい	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○		各部屋で構造化できている	個別で関わる部屋あると良い	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	○		朝礼やカルテを用いて、情報の共有化を図っている	もう少し早めの計画があった方が良い	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		アンケート結果をもとに全ての職員で情報を共有し、業務改善に努めている		
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		意見・要望を発信しやすい環境づくりとともに、相談や申し入れについては、可能な限りで適切かつ迅速に対応する事に努めている		
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		○	現状、外部評価を行っていない	現状、外部評価を行っていないが、前向きに検討する	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○		月に1度の事業所研修のほか、外部に委託し、ZOOMでの社外研修、弁護士によるコンプライアンス研修等を行っている		
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○		ホームページに公表しており、日々の活動の中で出来る事を探し、一人ひとりに取り組んで頂けるよう工夫している		
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	○		アセスメントをもとに、個々の利用児童に合わせた計画書を作成している		
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○		日々のお子様様の様子を職員全員で共有した上で、最善の個別支援計画の作成を心掛けている		
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○		児童指導員・公認心理士が中心に会議し活動計画を考えている		
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○		療育カルテ・ケア記録に記録を残し、振り返りを行っている		
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○		支援に必要な項目を話し合い、個別支援計画に明記している。方法を明確にした具体的な支援内容や評価を確実にできるような目標を設定している。		
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○		児童指導員・公認心理士が中心に会議し活動計画を考えている		
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○		利用児童の適正を考慮しつつ、毎日、日替わりで工夫した活動を行っている		

児 供	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	○		個別支援計画と個別支援計画に沿った専門的支援計画に基づいた個別支援と集団活動を織り交ぜつつ、個々の療育に取り組んでいる	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○		担当職員同士での打ち合わせを行い、活動や送迎の確認、個別支援の分担等の確認をしている	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○		担当職員同士での打ち合わせを行い、その日の支援での児童の様子や、送迎時に気づいたこと、活動や支援の振り返り等を連絡帳やケア記録に残し共有している	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○		療育カルテ・ケア記録に記録を残し、振り返りを行っている	
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○		6か月毎にモニタリングを行い、個別支援計画の見直しを行っている	
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	○		自立支援と日常生活の充実・創作活動・地域交流の機会や余暇の提供を含めた支援を行っている	
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	○		日々の活動含め、おやつに関しても複数の選択肢を準備している。自己決定の能力を育むとともに想いや気持ちを伝える能力も育てる支援を行っている	
関 係 機 関 や 保 護 者 と の 連 携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○		必ず児発管が参画している。必要に応じ公認心理士等、その他の者が同席する事もある	事前に情報共有の時間があるとよりよくなる
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○		市町村の保健センターや相談支援事業所と連絡を取り合い連携を行っている	
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	○		新たな利用児童については、利用開始前に必ず学校との情報共有を行い、都度、連絡調整を行っている	
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	○		幼稚園等とも情報共有させて頂いている	
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。		○	現状、移行するお子様がいらっしゃらない	現状、移行するお子様がいらっしゃらないが、今後、必要に応じて適切な対応をさせて頂く
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	○		北九州市以外の児童発達支援センターと連携し、様々な情報共有に努めている	現状、北九州市内では図れていない為、今後は市内でも図れるよう前向きに取り組む
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	○		放課後児童クラブや児童館との交流は行っていないが、不定期で市民センターの催し事に参加させて頂き、その際に地域のお子様とも共に活動する機会がある	
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。		○		現状、参加していないが機会があれば前向きに検討していく
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○		送迎時や、電話、連絡ツールを用いて都度、情報共有を行っている	
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	○		独自のカルテを用いて、モニタリング時等に個別に説明や情報の提供を行っている	
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○		契約時に確りと説明させて頂いている	
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○		アセスメントの機会を確りと設け、意思の尊重および最善利益の優先を念頭に作成している	
38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	○		支援計画書の作成時には、必ず説明を行い同意を得るようにしている		
39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○		御家族より困り事を相談される際は、電話および事業所内にて助言および支援を行う体制を整えている		

保護者への説明等	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	○		現状、保護者会を開催していないが、月に3回程度、きょうだい同士で交流する機会を設けている	
	41	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○		苦情窓口については、契約時に説明させて頂いている。苦情の際には迅速かつ適切に対応させて頂く	
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	○		ホームページやInstagramで月の活動予定表を公開し、連絡体制については、日頃より連絡帳として用いているシステムにて発信	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○		個人情報、鍵付き書庫に保管し、写真等の取り扱いも、ご希望に合わせ慎重に取り扱っている	
	44	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○		ご利用者様向けアプリを使い、日々の活動の様子を写真付きでお知らせしている。また、保護者の方々からの情報発信にも用いている	
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		○	以前に行った実績があるものの、令和6年度は行っていない	市民センターとの連携は図れているが、今後、事業所として、どこまで地域住民を招待できるか検討していく
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○		契約時に確りと説明させて頂いており、事業所研修にて年2回の訓練等を行っている	今後は、連絡帳や送迎時に積極的に周知する事に努める
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○		BCPの策定、水や食料、ポータブル電源の備蓄に加え、定期的な避難訓練を行っている	
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	○		契約時にアセスメントを実施させて頂き、必要があればくすり連絡票をご家族様に記入させて頂いている	
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○		アセスメント時に確認し、アレルギーのあるお子様については、ご利用開始の事前に、改めて、テストを受けて頂き、結果を把握させて頂いている	
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○		安全計画を作成し、定期的な研修および訓練を行ったうえで、安全が担保されたスペースで支援を行っている	
	51	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○		契約時に確りとお伝えさせて頂いている	
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○		都度、作成し事業所内で共有している	
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○		事業所研修の中で定期的に扱っている	
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	○		現状、身体拘束の事例はない 契約時に重要事項説明書の中で説明を行い、必ず承諾書を提出して頂いている		